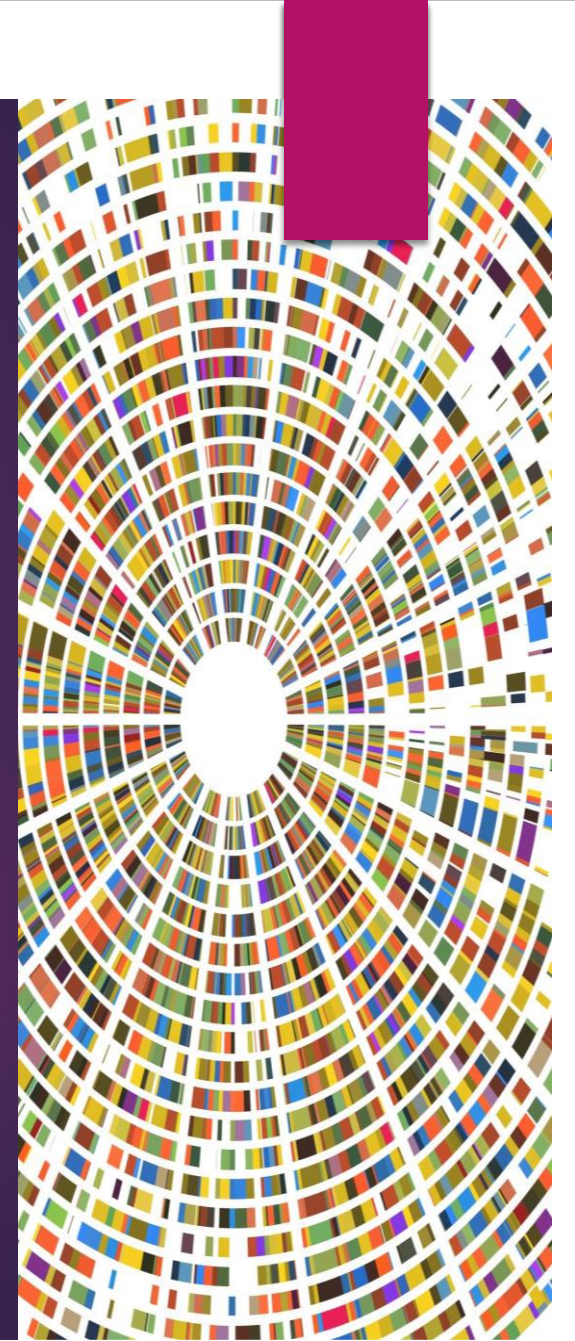
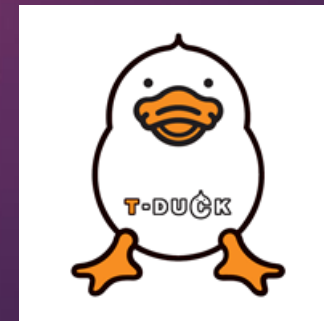
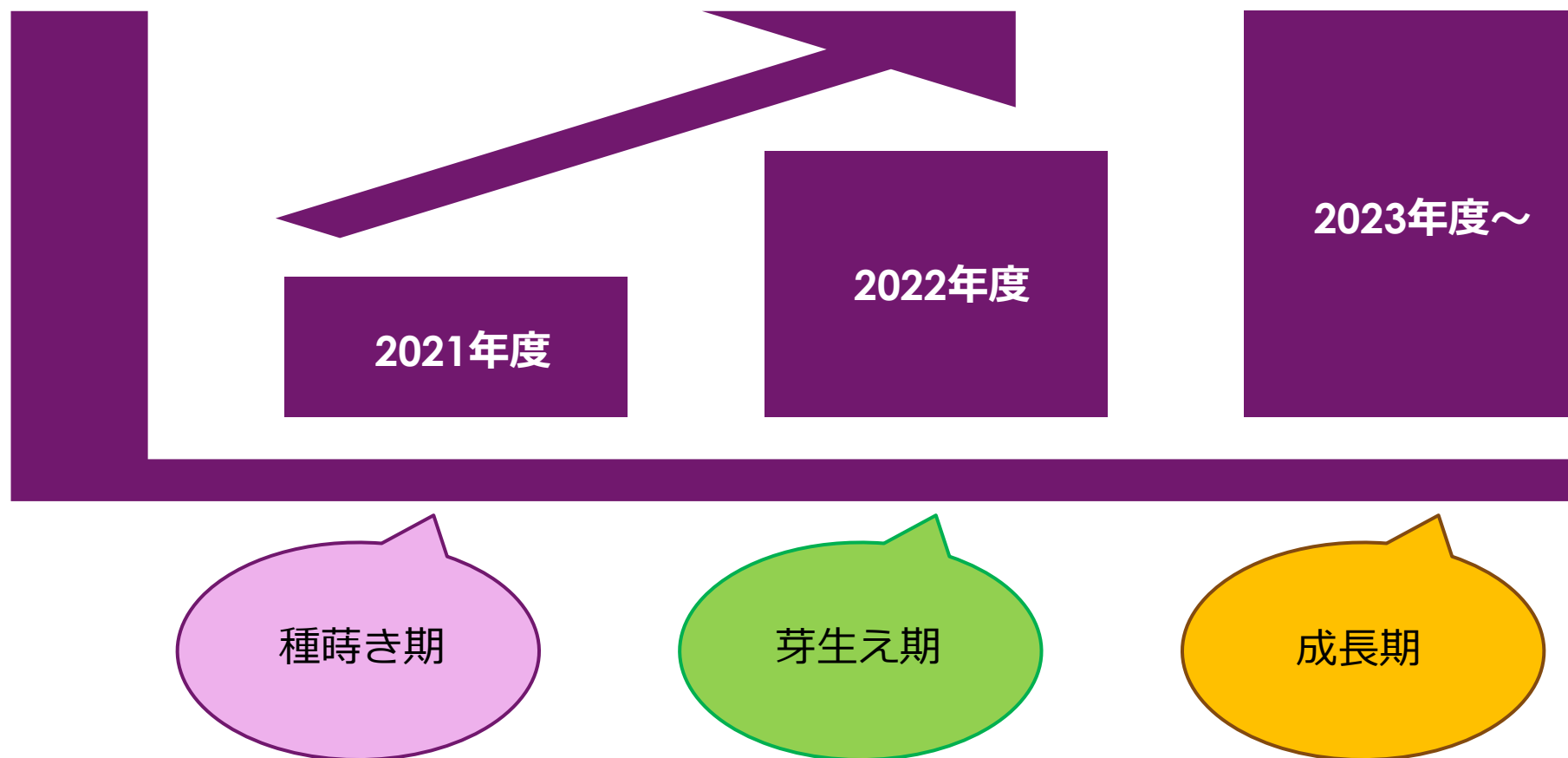


大学、学生、地域の連携から

—大正大学 おうだい子ども日本語教室の取り組み—



「これまで」と「いま」、そして「これから」



種蒔き期（2021年度）

☑ 研修会の実施

- 学科教員に「知ってもらう」
- 学生に「知ってもらう」
- 社会的課題や現場を「知る」

学科教員への認知

学生間のつながり

NPOとの連携

☑ 学長裁量経費への応募

- 執行部に「知ってもらう」

アドボカシー

気をつけたこと

☑ あくまでも学生が主体！

- 教室名、対象、開催日、チラシのデザインを学生が考える
- コーディネーターのほか、各学年の「運営」を置く

☑ 学生の不安を取り除く

- 研修会時の学生の声...「教え方が分かりません」「教科書は何を使えばいいですか」「子どもたちへの責任が...」「準備ができてから始めたほうが...」

「とりあえず始めたら何とかなる！」

気をつけたこと

持続可能な活動にするために

- 教室（場所）の確保
- 無償のボランティアではなく、有償の学生サポーターとして活動
- 豊島区教委、校長会、教育センター、社協との連携（2022～）
- 「日本語ネットとしま」への参加（2022～）

芽生え期（2022年度）

教室の開始

○夏休みから月2回（第1・3土曜日）14:00-16:00

○参加者

外国につながる子ども：18人

学生サポーター：17人（4年生：3人、3年生：9人、2年生：5人）

○日本語支援、教科学習支援、居場所づくり

学生の学び・声

授業の中では学べないことを学ぶ（実践・フィールド）

○社会構造によって生み出される課題に直接的にかかわることのできる機会を得る

○実践や体験を通じた気づき、自己変容

今回、担当した●さんは緊張していたようで、話しかけられても黙ったまま反応してくれなかった。最初は積極的にこちらから話しかけてみたが逆効果だったようで、少しわざと視線を外す等しながらできることにじっくり取り組み自信をつける時間を作ってみた後のほうが自分から動いてくれるようになったと感じた。自分の望みだけを通さず、じっくり進めていくことの大切さを意識しようと思った。

●さんは書くよりも話す方が好きなようだったので、前半に書いて覚えてもらったものを後半に会話の中で自然に使ってもらえるように工夫した。また、教えることが好きなようだったので、ネパールの文化や言葉を日本語に変えて教えてもらったり、分からないときは教えたりと、意欲的に日本語を使ってもらえるように工夫した。

●さんの担当を通じて、様々な気づきを得ました。
●さんは座って勉強するよりも体を動かすのが好きな様子だったので、カルタや一緒に字を書くといった試みをしました。また、久しぶりの日本語教室だったのでとても不安だったのですが、一緒に楽しみながら学習したり、「～は好きですか」「～はやりますか」などと学校の様子を尋ねていくうちに、少しずつ仲良くなれてよかったです。帰り際には、「もう終わり？ 楽しかった」と言ってくれて、また来てくれるようなので、とてもうれしい気持ちになり、また頑張りたいと思いました。

●さんが自己開示してくれるようになりました。前までは「わからない」と言うだけだったので、根気強く「どこがわからないのか」を聞いたのですが、今回その成果が出たようで、スムーズに授業を進めることができました。

今回は、年賀状づくりを行いました。お正月といえ
ばというイラストがなかなか思いつかなかったため、
今回みんなと一緒にお正月のことを考え、季節を
感じる事ができたためとてもよかったです。また、
みんな絵が上手で前よりも字がとてもきれいにな
っていたので、来年の日本語教室もとても楽し
みになりました。

今回初めて●さんのお母さんにお会いしました。
叔父さんとちがい、●さんのことを分かっていて、
たまに口を出すので、少しやりにくい部分もありま
したが、だんだん慣れてきて二人と一緒に●さん
を教えました。●さんが苦手に行っている所が分かっ
たので、そこを重点的に教えました。

前回教えたときに質問をたくさんしようと決めてい
て、今回質問できたので、とてもよかったです。次
回、子どもに何かわからないことがあったら、ジェ
スチャーや、絵を描いたりして教えてあげたいです。
おうだい子ども日本語教室に参加できて、とても
楽しく、良い経験ができました。

今回、絵本の読み聞かせをやってみて、小学生た
ちの反応と親御さんの反応がよく、読んでみてよ
かったなと思います。

絵本は、やはりただ聞くよりも、動く（参加型）の方
が反応がよいので、そういうものを中心に選書しよ
うと思いました。